

共立女子第二中学校

2021年度

入学試験問題（1回PM）

【 国 語 】

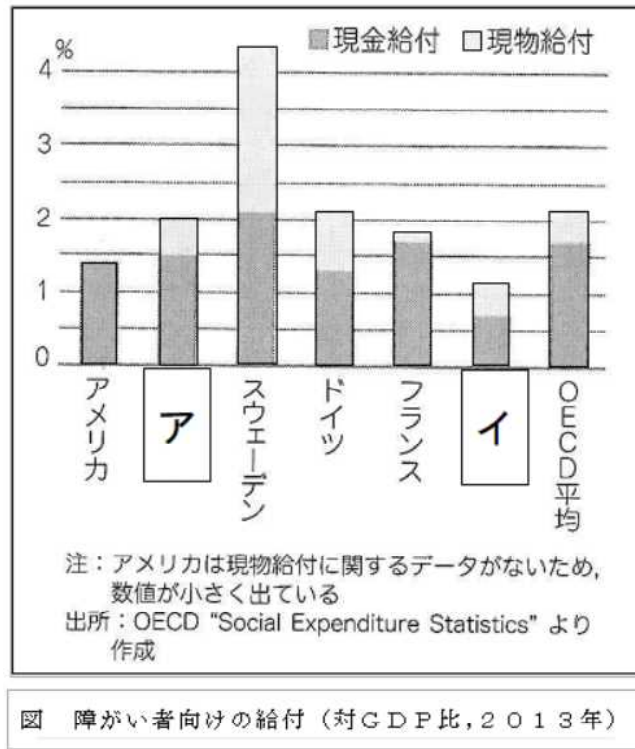
試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で11ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

少子高齢化の世の中にあつて、お母さんやお父さんの世代の生活を保障するために、家族への給付をゆたかにすることは大変なことです。ですが、障がい者、仕事だけがをしたり、病気になったりした人たちへの給付は、①賛成してもらおうのがむづかしいかもしれません。②、障がい者への給付の重要性については、十分に理解されているとはいえないのが現状です。図を見てくださ



そのなかで、日本は、明らかに障がいに対する給付が不十分な国だということがわかります。^③

この点はやや不思議な点です。日本全体で障がいをもつ人の割合は七%程度だといわれています。これに家族をくわえてみれば、単純に計算しても二〜三割の人たちは障がい者と何らかのかかわりがある人たちということになります。

a、障がい者の年齢構成を見ますと、じつはかなりの割合が有権者です。もっと政治的な影響力をもってもよいと思いますが、その機運はいつこうに高まりません。

障がい者への支援が不十分だという現実の根底にはふたつの大きな問題があります。

ひとつは、障がい者が見えにくいという問題です。日本では伝統的に、障がい者のいる家族がその事実をかくそうとする傾向が強かったことが知られています。また、障がいのある児童とそうでない児童とがかかわりあう機会、b通級学級の促進もうたわわていますが、実施数は全体の一五%程度にかぎられています。みなさんが子どもの頃に読んだ絵本のことを思い出してみてください。多くの先進国とはちがひ、僕たちの読んだ絵本には、障がいをもった人がほとんど出てこなかったでしょう。障がいの問題は、僕たちの目に見えにくい問題なのです。

もうひとつ、障がいにもさまざまな種類があり、それぞれが協力しあって予算に結びつける力が弱いという問題があげられます。^④
僕たちは一言で障がい者といいますが、障がいには、身体、精神、知的といったちがいががあります。それぞれが必要とするサービスには大きな差がありますし、身体の障がいや精神の障がいや青年期や高年齢期に発現する **c**、知的障がいは各年齢層でまんべんなく発現します。^⑤このようちがいがいから、政治的にひとつの動きをつくりだし、それを予算のなかに反映させていくことがとてもむづかしいという限界があるのです。

関係者が人口の二〜三割いるとはいえ、障がいをもつ人は、数だけでいえばかぎられています。 **d**、障がい者への給付の大き

さは、社会的な弱者への **⑧** を映しだす鏡のようなものです。そのような目から見ると、日本の障がい者への給付はあまりにもお粗末だといわなければなりません。この弱者につめたい社会という現実をみなさんはどう考えますか？なぜ日本人は弱者につめたいのでしょうか。この深刻な問題は第六章で考えます。自分が障がいをもってはじめてこの社会のつめたさをみなさんは知るわけですが、そうなる前にだれもが安心して生きていける社会の姿を話し合っておくことは、価値のあることです。

〔井手英策『財政から読みとく日本社会―君たちの未来のために』〕

問一 **①**・**②** にあてはまる語句の組み合わせとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ①あえて ②それゆえ イ ①さらに ②とくに ウ ①どうしても ②加えて エ ①もつと ②たしかに

問二 ③「日本は、くわかります」とありますが、**㊦**において「日本」を表しているのはア・イのうちどちらですか。

問三 **a** く **d** にあてはまる語句として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア 一方 イ いわゆる ウ おまけに エ ですから

問四 ④「もうひとつ」とありますが、これより前に書かれた問題は何ですか。本文中より十五字以内でぬき出しなさい。

問五 ⑤「それぞれがく結びつける力」とありますが、これはどのような力ですか。本文中より三十五字以内で探し、解答らんに合うようにはじめと終わりの三字をぬき出しなさい。

問六 ⑥「このようながい」とはどのような「ちがい」ですか。本文中より二つ探し、それぞれ解答らんにあうように答えなさい。

問七 ⑦には以下の文章が入ります。文脈に合うように順序を並べ替え、記号で答えなさい。

【A】ですから、障がい者のための現金給付や現物給付は、もつと身近な問題として考えられてよいはずですよ。

【B】いえ、それ以前に、です。事故にあったり、自然災害にあったりして、みなさんも障がいを負うかもしれないではありませんか。明日、僕たちが車にはねられ、障がいをかかえる可能性はいつでも存在しています。

【C】でも想像してみてください。みなさんが大人になり、子どもにめぐまれ、出産をひかえたときになればわかると思います。大人たちは、お腹のなかの大切な赤ちゃんに対して、だれもが障がいの可能性について考えた経験をもっています。

【D】それだけではありません。仕事を追われたり、非正規雇用に追いやられたりするなかで、精神的な病におそわれる人の数も急激に増えています。精神疾患にはさまざまな病気がふくまれますが、うつ病や不安障がいの患者数は二〇〇〇年代の一〇年間で約一・八倍になり、ある調査では一五人にひとりが一生のうちでうつ病にかかるといわれています。

問八 ⑧にあてはまる言葉として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 影響力、つまり圧力

イ 親しみ、そしてつめたさ

ウ メッセージ、加えて活力

エ 思いやり、あるいはきびしさ

問九 本文中の内容と合うものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、障がい者の存在が周囲に充分に理解されれば、支援は必ず充実されるという意見を主張している。

イ 筆者は、障がいにかかわる給付が、ここ数年のうちにとどの国も偏りなく高いレベルに達してきたと説明している。

ウ 筆者は、障がいを持つ人だけでなく、すべての人が障がい者への給付について考えることの重要性を訴えている。

エ 筆者は、障がいを持つ人と関わりをもつ人の数に比して、障がい者を支援する人の数は十分だと考えている。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

四時過ぎに家に帰って来ると、おばあちゃんはきまって台所のテーブルで勉強している。のぞいてみると、漢字ノートに「花」とか「草」とか小学一年生が習うような漢字を書いている。初めはびっくりした。漢字の読み書きができないとは聞いていたけれど、ここまでだとは思わなかった。それに、よく見ると、毎日似たような漢字ばかり書いているのだ。

「昨日覚えたと思っても、今日になると忘れてるから、何回も何回も書いているんだよ」とおばあちゃんは言う。

内心、「^①こんなを書いてて、楽しいのかな」と思っている。おばあちゃんには言わないけれど。

おばあちゃんが夜間中学に行くと言ったとき、お母さんは「いいことだ」と言って、わたしもうなずいた。でも、本当は、なんでこんなに年をとってから勉強したいと思うのか不思議だった。今もそう思っている。^② なんのために行くんだろう。中学を出たって、この先高校や大学に行くわけでもないのに。字が読めないのは不便だけれど、今まで何十年もそうやって過ごしてきたのだから、今さら習わなくてもいいのじゃないか。

わたしだったら、学校に行きたいなんて絶対に考えないと思う。夕方に出て行って勉強して、^{よるおそ}夜遅く帰って来るなんて、まっぴらだ。夜は、テレビを見たり、家でごろごろしてたりするほうが断然いい。

それに、わたしは、どうしても納得^{なつとく}できないでいるのだ。おばあちゃんが、小学校すらまともに行っていないという事実について。お母さんは、「戦後の混乱」と言ったけど、戦争が終わったときはまだ五歳^{ごさい}だったはずだ。小学校に行く年齢^{ねんれい}じゃない。じゃあ、戦後の混乱なんて関係ないのではないか。もしかしたら、一年生のときはまだ大変だったかもしれないけれど、さすがに高学年になるころには、おさまっていたのではないだろうか。中学なら、絶対影響^{えいきやう}なんてなかった気がする。

それなのに行かなかったおばあちゃんは、本当はなまけていたのではないだろうか。わたしは、思いきって聞いてみた。

「ねえ、どうして子どもころ学校に行かなかったの？ 戦後がどうのこうのっていつても、おばあちゃんが小学校に上がる一年以

「おばあちゃんの役目って……。まだ五歳だったんでしょ」

五歳といえば、まだ幼稚園児だ。少し前までおむつをしていたような年だ。そんな子が家事をした？

おばあちゃんは、昔のことを思い出すように目を細めた。

「ごはんひとつ炊くのも、今とは比べものにならないくらい手間がかかったんだよ。うちは貧しくてガスなんてなかったからさ、木で炊くんだよ。かまどでね。ごはんを炊いて、お汁を作ってた」

「そんな小さい子が、火なんて使って危険じゃないの？」

火は危ないと、さんざん言い聞かされて育ってきた。わたしだけじゃなくて、同級生の子たちもみんなそうだ。初めてマッチで火をつけたのは、五年生の理科だ。マッチをするたびにドキドキした。家庭科でガスを使うときは、さらに大事だった。それを五歳で？

「今から思えば危ないよねえ」

おばあちゃんは、笑った。

「洗濯でもなんでも、機械なんてないからさ、みんな手洗いで。冬はつらかったよ。弟はぐずぐず泣いてばかりだし。ちよつとでも時間があるときは、くず拾いをしたんだ。釘とかネジとかを拾って、『くず屋さん』に持って行くと、お金をくれるんだ。農家に手伝いにも行った。農家には、わたしと同じように学校に行かないで働いている子が何人もいたよ」

「おばあちゃん以外にもってこと？」

「ああ、戦争が終わった直後は、親のいない行くあてもない子は、のきなみ農家に連れて行かれることもあったんだよ」

「でも……。そんなのいいの？ 法律とか」

くわしいことはわからないが、許される話ではない気がする。けれど、おばあちゃんはあっさり言った。

「死ぬよりはましだよ」

死ぬか、働くか。子どもがそんな選択を迫られる時代だったのだ。

「あたしはね、家族もいたし、住む家だってあった。だから、それだけで幸せと思わなきゃいけなかったんだ」

おばあちゃんは、かみしめるように言った。

「小学校には、何回か行ったんだよ。弟を連れてね。でも、たまにしか行かないから、席がないんだよ。それで、先生が来るまでずっと立って待っていなきゃいけないよ。それがいちばんイヤだったね。底なしの貧乏^{びんぼう}だったから身なりも汚^{きた}いし、お弁当も持って行けないし。バカにされるのもイヤだったんだよ。でも、今考えれば、ゆうなの言うとおりに、行こうと思えば行けたのかもしれない」
小さな弟の手を引いて学校に行く女の子。想像してみようとしたけれど、今ひとつ明確には思い描^{えが}けなかった。でも、それが自分だったら耐^たえられないと思った。

「結局小学校はほとんど行かなかったけど、先生は、なんにも言わなかったよ。言ってもどうしようもないって思ってたんだらうね」
「……おばあちゃんのお母さんは？」

自分の子どもが学校に行けないでいるのに、なんにも言わなかったんだらうか。

「なんにも言わなかったよ」

おばあちゃんは、優^{やさ}しい顔で言った。

⑤「なんにも言えなかったんだよ、きつと」

おばあちゃんの目は、遠くのほうを見つめていた。まるでそこに、自分のお母さんの姿が見えるみたいに。

「あたしはね、学校に行くより、弟の世話をしたり、ごはんを作ったりしてるほうがよかったんだよ。合間を見て働くこともつらくなかった。自分が家族を支えていると思うと、うれしくらいだった。」
⑥、そう思った。でもね、あるとき、ごはんを炊きながら、炎^{ほのお}を見てたんだ。

⑦薪^{まき}が燃える様子をさ。そしたら、⑧涙^{なみだ}がぼろぼろ落ちてきてさ。気がついたら⑨泣いてた。

あるとき、なんで泣いたのか自分でもわからなかったけど、もしかしたら、胸の奥^{おく}のほうではつらかったのかもしれないねえ」

かまどの前で、ひとり泣いている小さな女の子の姿を思うと、胸が痛んだ。小さいころのおばあちゃんに会いに行ってくださいしめてあげたいと思った。
⑩

おばあちゃんは、学校に行かないまま大人になった。読み書きができなくても、仕事はなんとかあったらしい。

「けどさ、読み書きできないっていうのはやっぱり不便でね。いちばん困ったのは、お通夜^{つうや}だよ」

「お通夜？」

「ゆうなは、まだ行ったことないだらうけど、お通夜とかお葬式^{そうしき}ってのは、行くと、住所と名前を書かないといけないんだよ。ひら

がななら書けるけど、まさか、全部ひらがなで書くわけにいかないじゃないか。それで帰ってきたこともある」

わたしは黙だまっておばあちゃんの話に聞きいつていた。

「そんなとき、字を覚えたいなと思ったよ。おじいちゃんが元気なころは、いつも助けてくれたけどね。でもね、おばあちゃん、けんじの名前もゆうなの名前もちゃんと書けないんだよ。なさけないよねえ。自分の子どもや孫の名前を書けないなんて」

「いいよ。わたしの名前なんて書けなくても」

わたしは、軽い気持ちで言ったのだけれど、おばあちゃんは、たちまちさびしそうな顔になった。

「そうかもしれない。けどね、自分は、人がやらなきゃいけないことをやってきてないって気がしてさ。大きな忘れ物をしてるみたいなさ」

「学校に行けなかったのは、おばあちゃんのせいじゃないのに」

「そうかもしれないけどね」

おばあちゃんは、自分の手に視線を移した。大人にしては小さな、皺しわ々の手。その手をにぎったり開いたりしながら、なにかを考考えている。しばらくそうしてから、おばあちゃんは口を開いた。

「青葉中学の夜間学級は、おじいちゃんの病院に行くときのバスで見かけたんだよ。看板が出てたんだ」

校門の横に看板があつて、「働働きながら勉強できる」とか「いつでも相談に来てください」とか書いてあるらしい。ちゃんとふりがなが打つてあるので読めたのだそうだ。

「初めて見たときは、あんまりよく意味がわからなかったんだ。でも、病院にチラシが置いてあつてね。『何歳からでも、いつからでも入れます。だれでも入れます』ってね。おじいちゃんに見せたら、『これはおまおまえみたいな人間の⑩ための学校だ。行けばいい』って。でもね、おじいちゃんの看病もあるしね。そんなわけにはいかないって話してたんだよ。だけど、どうしても気になって。おじいちゃんの病院に通つてた三年間、ずうつと考えてたんだ。どうしよう、どうしようって」

三年間も！

問一 ①「こんなの書いてて、楽しいのかな」とありますが、ゆうながこのように思ったのはなぜですか。本文中の語句を使って二十五字以内で説明しなさい。

問二 ②「なんのために行くんだろう」とありますが、おばあちゃんが夜間中学へ行く理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 学校に行かなかったのは、自分の能力が低いからではないと証明したいから。

イ 誰でもできることができずにいる自分をバカにした周囲を見返したいから。

ウ 人としてやらなくてはいけないことをやっていないように感じているから。

エ 学校へ行くことで、昔体験できなかった青春を取り戻そうと考えているから。

問三 ③「ちよつと意地悪な気持ちになっただけだと思う」とありますが、なぜ意地悪な気持ちになったのですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア まだ少ししか学校に通っていないのに、おばあちゃんがたくさん勉強しているように話すから。

イ 夜わざわざ学校へ通うのは大変なはずなのに、おばあちゃんが楽しいと優等生ぶっているから。

ウ 自分はずらなくてどうしても行けない中学校なのに、おばあちゃんが楽しそうに通っているから。

エ おばあちゃんは学校に通ったものの、字を忘れてしまっただけなのに、隠そうとしているから。

問四 ④「ずいぶんのんきな時代だ」とありますが、実際はどのような時代でしたか。本文全体を読んで、二十五字以内で探し、はじめと終わりの三字をぬき出しなさい。(句読点などがあれば一字とします)

問五 ⑤「なにも言えなかつたんだよ、きつと」とありますが、このときの気持ちとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 知識がないために、どうすれば学校に行かせられるかわからなかったお母さんに同情している。

イ 周囲が何も言わないのをよいことに、自分を働き手としてつかっていたお母さんを責めている。

ウ あまりにつらいことだったために、現実から目をそむけようとしているお母さんに共感している。

エ 娘に我慢させていることも分かっているが、どうにもならなかったお母さんを思いやっている。

問六 ⑥ ⑨ にあてはまる語句として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 急に イ おいおい ウ ずっと エ めらめら

問七 ⑩ にあてはまる言葉として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア がんばってるね。偉いね

イ もつとがんばらないといけないんだよ

ウ わかるよ。でもみんな我慢してるんだよ

エ 学校なんて、つまらないだけだよ

問八 次は、⑪ 「大人にしては小さな、皺々の手。その手をにぎったり開いたりしながら、なにかを考えている」という文について話し合っている場面です。

⑪ a ⑫ b にあてはまる語の組み合わせとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

共子 「大人にしては小さな、皺々の手」とあるけれど、これは単純におばあちゃんの手を描写しているだけではないんじゃないかな。いかな。

立子 そうだね。「皺々の手」ということは、やっぱりおばあちゃんの今までの a が表現されていると思うな。子供時代の大変だったこととか、お通夜で困ったこととか。

共子 そう考えると「大人にしては小さな」というところも、もしかしたらおばあちゃん自身が、自分のことを b になりきれていない、足りない部分があるんだと思っていることを表現しているのかもしれないね。

立子 おばあちゃんは読み書きを覚えたいのはもちろんだけど、きつと子どもころあきらめてしまったことに挑戦したいという思いもあるんだろうね。物語って、いろいろな方法で登場人物の気持ちが表現されているんだね。

ア a 思い出 b 大人 イ a 思い出 b 働き手 ウ a 苦勞 b 働き手 エ a 苦勞 b 大人

問九 ⑫ 「おまえみたいな人間」とありますが、これはどのような人ですか。二十字以内で説明しなさい。

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の季語が表す季節として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 月見だんご ② ひなあられ ③ かき氷 ④ おでん

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

問二 次の①～④の空らん^{らん}に体の一部を表す漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

- ① 異 同音 ② 尾一貫^{びいっかん} ③ 馬 東風 ④ 自給自

問三 次の①～④の熟語と同じ構成を選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 郷里 ② 若者 ③ 帰宅 ④ 収支

A	同じような意味の字を組み合わせたもの。	(例) 良好
B	反対の意味の字を組み合わせたもの。	(例) 大小
C	上の字が下の字を修飾 ^{しゅうしよく} しているもの。	(例) 緑色
D	下の字が上の字の目的語になっているもの。	(例) 登山

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 代表の立場を退く。 ② 事件を聞き悲痛な表情になる。 ③ 存在^{ぞんざい}を確かめる。 ④ 期待に^た応える。

問五 次の①～④の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 看護師をココロザス。 ② 神社にサンパイする。 ③ 入場のシカクを得る。 ④ 夕焼けが空をソメル。